事業の背景・目的

・実績報告書（別紙9-3）を基に、事業の背景や目的、必要性、地域における生物多様性保全上の課題等を簡潔に記載（300文字以内）
平成24年からヒョウモンモドキ保全地域協議会による保護活動を始め、平成30年は新生息地及び既存生息地で野生復帰させた生息域外保全個体群を次世代へ継続し生息させるため、全生息域での植生環境整備や生息域保全として飼育設備の整備を行い確実定着をめざした。今後の課題としてヒョウモンモドキが生息する湿地を恒久的に維持していくため、積極的に地域住民に参画できるよう取り組んでいきたい。

事業の内容

・実績報告書（別紙9-3）を基に、実施した事業結果の概要を簡潔に記載。事業が複数ある場合や、複数年度にわたる場合には、枠囲みを用いるとわかりやすい。

事業① 生息域外保全個体群の維持

・せら県民公園での飼育は順調に進み、継続し取り組んでいた生息域外保全個体群(幼虫)を追加復帰することができた。
・広島市森林公園昆虫館では、今年度飼育施設が完了したため、31年度から生息域外保全を開始する。

事業② 野生復帰個体群のモニタリングおよび追加復帰

・新生息地で野性復帰個体群の定着をめざすため、食用キセルアザミやノアザミの移植を行った。

事業③ 新生息環境の維持と追加創出

・新生息環境の維持に向け、植生環境整備を実施した。
・広島市森林公園昆虫館で生息域外保全に取り組むこととし、食草・吸蜜植栽を栽培、飼育施設を整備した。

得られた成果

・実績報告書（別紙9-3）を基に、事業の成果、活動継続の見通し、事業終了後の展開等を簡潔に記載（400文字以内）

生息域外保全個体群を野生復帰させた新生息地では、全箇所ですべて次世代へ継続する新成虫の飛翔が確認され、確認された数箇所では、せら県民公園で取り組んでいた生息域外個体群（幼虫）を復帰することが出来た。
今後は広島市森林公園昆虫館も飼育施設整備が完了したため、生息域外保全を開始することとなり、安定的な累代飼育が望める。
また、新生息地に野生復帰させた生息域外保全個体群の成虫発生数の増加にともない、卵塊・幼虫巣の増加が期待され、幼虫を野生復帰させた新生息地でも、成虫の飛翔と、卵塊・幼虫巣の確認が期待される。